（セントマーガレット病院　外科，*東女医大消化器外科）　松村直樹・中迫利明・天満信夫・吉利賢治・羽鳥　隆*

重症急性膵炎に対し，各種の humoral mediator を除去する目的で血液浄化療法を早期より施行し，良好な結果が得られた1例を経験したので報告する．

症例は42歳男性で，飲酒後の上腹部痛を主訴に来院した．重症急性膵炎と診断し，入院後直ちに呼吸循環管理を中心とした intensive care を施行すると共に，第2病日より4日間持続的血液濾過を施行したところ，白血球数の減少および解熱が得られ腹部症状も改善し，重大な多臓器障害を併発せず順調に経過し，第38病日に退院となった．膵炎治療においては初期治療が特に重要であるが，血液浄化療法を併施することで，より一層の治療効果が期待できるものと思われた．

膵石症の20例―ESWL 後に膵管口および狭窄膵管を内視鏡的膵管バルーン拡張術（EPD-BD）を施行し排石し得た1例―

（浦和市立病院　内科，消化器内科）
星野容子・辻　忠男・鶴見直子・元　鍾聲・佐々木宏晃・田宮　誠

この5年間に当院で治療した膵石症は20例である．6例は ESWL 単独で，1例は EST 単独で，8例は ESWL＋EPST で，4例は ESWL＋EPST＋EPD-BD で，さらに最近の1例では ESWL 治療後，non-EPST で EPD-BD を行い排石および狭窄膵管を拡張することができたのでここに報告する．

〔症例〕65歳，男性で，アルコール性膵石症があり，心窩部痛を主訴に入院した．膵頭部に10mm 大の結石が嵌頓し，膵管は体部で10mm と拡張し，頭体部で狭窄し，尾部には40mm 大の嚢胞形成を認めた．4回の ESWL で結石破砕後，排石は認めたが，嚢胞は消失しなかった．また，結石再発防止目的に膵管口および狭窄膵管に対し EPD-BD を行った．その結果，狭窄部の拡張および，嚢胞の消失を認めた．

〔結語〕EPD-BD は膵石症治療，狭窄膵管拡張に有用である．

膵癌におけるテロメラーゼ活性の検討

（東女医大　中央検査部臨床生化学検査科）
小山祐康

ヒトの染色体末端にはテロメアと呼ばれる単純な繰り返し配列（TTAGGG）がある．これを合成する酵素がテロメラーゼであり，通常は生殖細胞以外の体細胞には活性を認めないが，腫瘍細胞などの不死化した細胞には活性を認めるようになる．テロメア長の短縮は腫瘍化と関連が深く，消化器関連では胃癌，大腸癌，肝臓癌などでテロメラーゼ活性を認めている．今回われわれは膵癌の診断におけるテロメラーゼ活性の有用性について，膵癌切除生標本8例を用いて TRAP 法で検討したところ，癌部8例全例にテロメラーゼ活性を認め，膵癌の診断にテロメラーゼ活性は有用と考えられた．今後は術前診断をめざし，純粋膵液やブラッシング細胞でテロメラーゼ活性を検討したい．

Treitz 靱帯部に発生した悪性リンパ腫の1切除例

（国立横浜病院　臨床研究部）　小川美穂・米山　大・中村真一・関谷仁美・磯野悦子・古川みどり・松島昭三・小松達司・若杉純一・西山　潔・田口智也・高橋　陽・三木　亮

症例は54歳男性で，糖尿病で当院内科に通院中であった．1997年3月より食後の腹部膨満感と上腹部痛を認め，精査のため入院した．腹部 CT 検査，ERCP で異常を認め，十二指腸造影検査および上部消化管内視鏡検査で十二指腸空腸曲に Borrmann 2～3型様の潰瘍を伴う不整な隆起性病変を認めた．生検で悪性リンパ腫が強く疑われ，十二指腸空腸部分切除術を施行した．病理組織学的検討でB細胞性悪性リンパ腫，diffuse large cell type と診断した．十二指腸空腸曲に発生した悪性リンパ腫は稀少であり，その1切除例を経験したので報告した．

膵体尾部切除，脾摘，左腎摘，左半結腸切除で摘出しえた後腹膜平滑筋肉腫の1例

（北本共済病院）　畑中正行・吉井克己・浦橋泰然・渡辺　麗

症例は48歳女性で，体動時に左側腹部痛を自覚し当院を受診した．触診で左側腹部に圧痛を認めたが腫瘤は触知しなかった．超音波検査および CT 検査で，膵体尾部と左腎に接して径10cm 大の境界の比較的明瞭な腫瘤を認め，血管造影で中結腸動脈左枝の不整像を認めた．以上より後腹膜原発の悪性腫瘍の診断で手術を施行した．上腹部正中切開で開腹すると腫瘤は左後腹膜腔にあり，膵体尾部，左腎，左尿管と強固に癒着しており，横行結腸間膜に直接浸潤を認めた．そのため膵体尾部，脾，左腎，左副腎ならびに左半結腸を一塊として en bloc に摘出した．標本上，腫瘤は13×9×8cm で卵円形弾性硬であり割面は灰白色充実性であり，病理組織学的検査で，後腹膜原発の平滑筋肉腫と診断された．術後経過は順調であり，1年6カ月経過